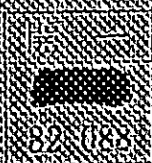


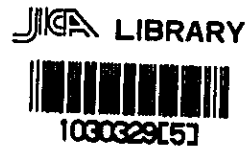
ペルー国
カジャオ港整備計画
事前調査報告書

昭和57年4月

国際協力事業団



ペルー国
カジャオ港整備計画
事前調査報告書



昭和 57 年 4 月

国際協力事業団

國際協力事業団	
輸入 584.8.25	709
	61.7
登録No. 1413427	SDF

目 次

緒 言

I 調査の目的，日程及び調査団の構成	1
1. 調査の背景	3
2. 調査の概要	3
3. 事前調査の目的	3
4. 調査団の構成	3
5. 調査日程	4
II 結論と提言	7
1. 本格調査に関する協議	9
(1) SCOPE OF WORKの概要	9
(2) 主要討論点	11
(3) RECORD OF DISCUSSIONの締結	13
2. 本格調査に対する提言	14
(1) 調査団の構成	14
(2) マスタープラン	15
(3) 短期整備計画に含めるべき内容	15
(4) コンテナターミナル計画	16
(5) 自然条件調査	17
(6) そ の 他	22
III 現地調査活動	23
1. 概 要	25
2. 協議・打合せ記録	28
IV 港湾の現況	43
1. カジャオ港	45
2. サンマルティン港	49

V 附 録	57
1. ドキュメント	59
(1) SCOPE OF WORK	59
(2) RECORD OF DISCUSSION	67
(3) QUESTIONNAIRE	70
(4) INVESTIGATION FOR NATURAL CONDITIONS.....	78
2. 面会者リスト	80
3. 収集資料リスト	81
4. ENAPU組織図	87
5. カジャオ港組織図	89
6. カジャオ港概略図	91

序 文

日本国政府は、ペルー国政府の要請にもとづき、同国カジャオ港の整備計画についての調査を行うことを決定し、その調査を国際協力事業団が実施することとなった。

国際協力事業団は運輸省第四港湾建設局下関調査設計事務所長中野拓治氏を団長とする事前調査団を組織し、昭和57年3月26日から4月9日までの15日間にわたり同調査団を現地に派遣した。

同調査団は、ペルー国政府関係者との協議を通じ、本格調査を実施する上でのペルー国政府のとるべき措置及び本格調査の枠組み等につき合意し、それらをスコープ・オブ・ワーク（SCOPE OF WORK）として取極め、併せて現地踏査、関連資料・データの確認及び収集を行った。

本報告書は、ペルー国政府の要請の背景、スコープ・オブ・ワーク合意までの協議の過程を述べるとともに現地調査にもとづき今後の本格調査を実施する上での提言についてとりまとめたものである。

おわりに、今回の事前調査の実施にあたりご協力ご指導いただいた関係各位に対し厚くお礼を申し上げます。

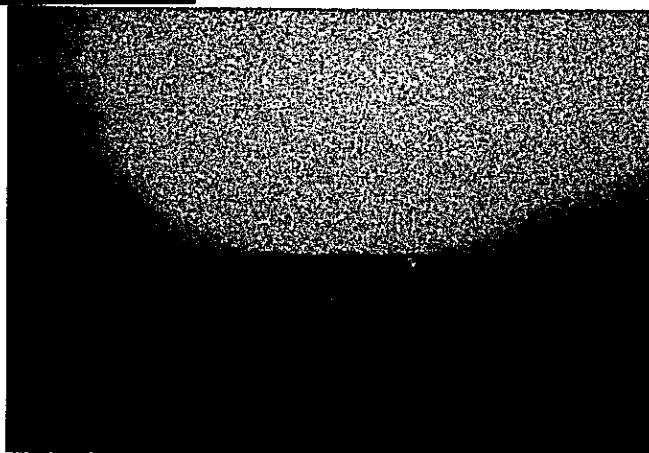
昭和57年4月

国際協力事業団
理事 中 沢 式 仁

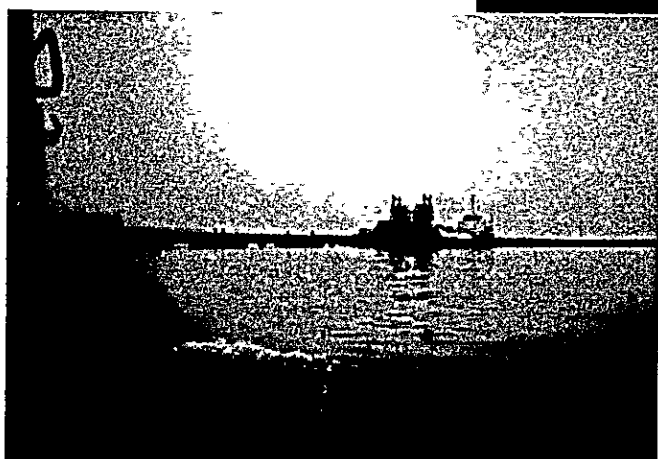
現地写真



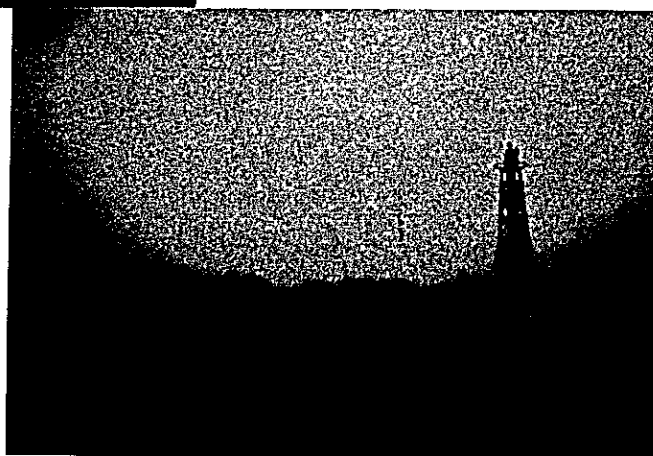
第二ふ頭



北防波堤



石油バース



港口部より見た荷船状況



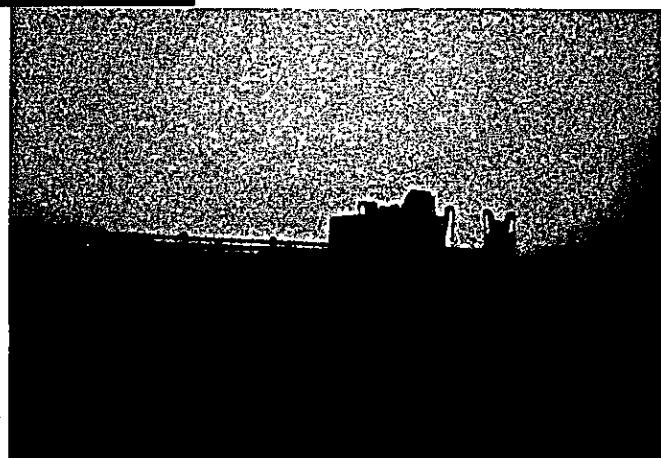
荷 船 状 況



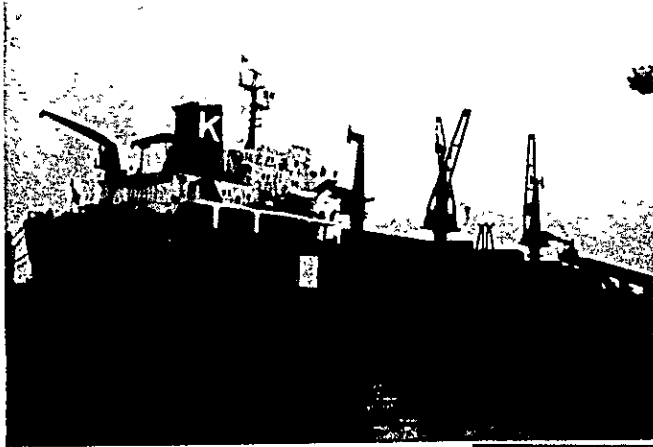
海 軍 乗 降 施 設



南防波堤と穀物アンローダー



穀 物 ぶ 頭



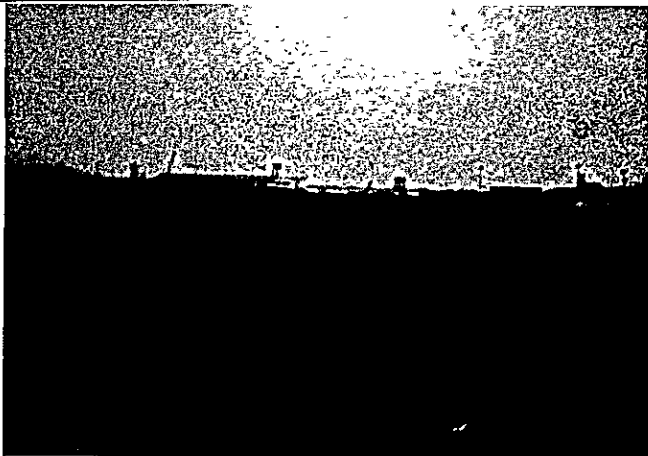
第5ふ頭のセミコン船



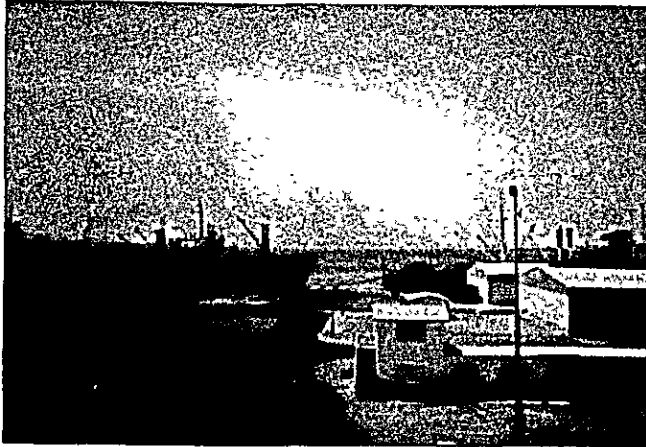
軍港区



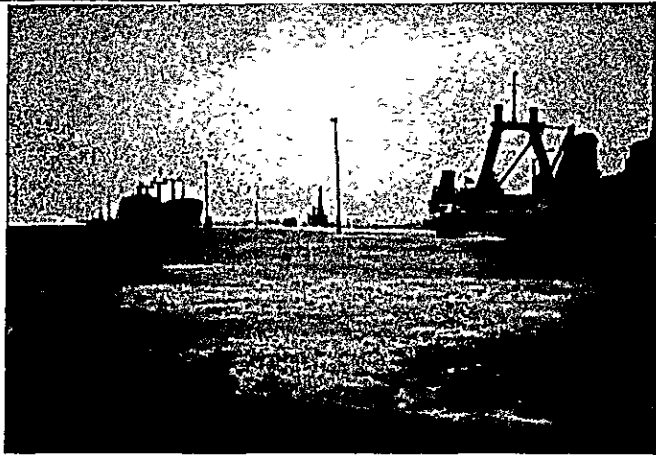
造船所



工事中のコンテナ用地



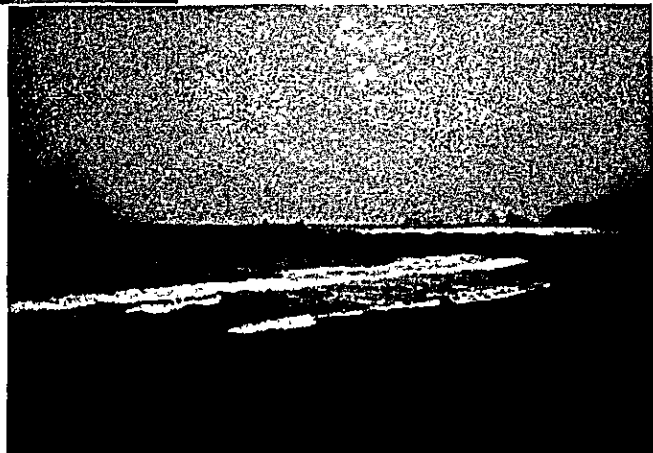
San Martin 港



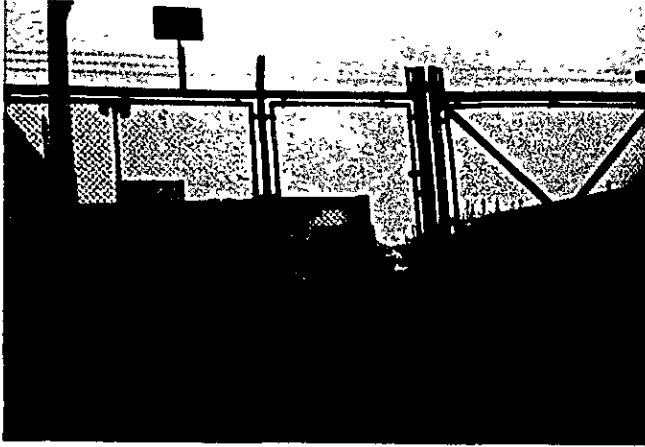
San Martin 港 北側岸壁



San Martin 港 南側岸壁



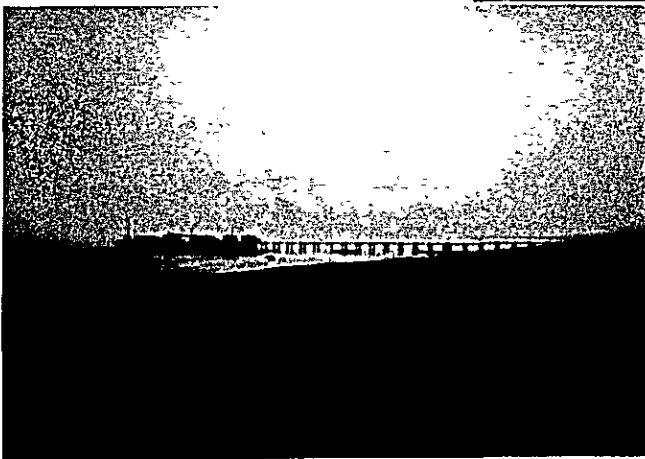
Ventanilla 漁港 試驗堤



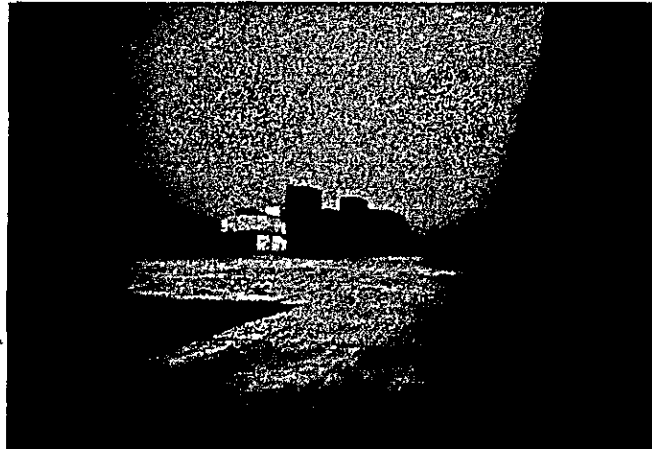
コンテナ保管状況



Callao 港 南側海岸



Callao 港 北側海浜



郊外のコンテナ置場

緒 言

ペルーは、中南米で最初に日本と国交を開いた国であり、集団移住の始まりも1898年に遡り、1979年には、園田外務大臣を迎えて、移住80周年記念が、日秘両国間で祝われた間柄である。

政治面では、1968年以来12年間続いた軍政が1980年民政移管され、ペラウンデ氏が今後5ケ年の任期の共和国大統領に就任している。

一方、港湾活動の面では、ここ数年目立った変動はないわけであるが、ペルーの外貿貨物の約25%を扱い、輸入貨物では50%を超えるカジャオ港（人口500万を有する首都リマ市の西方15kmに在るペルー最大の港）にも、コンテナの波が打ち寄せ、1960年以来新しいふ頭建設の見られない同港は、今日大変なポートコンジェスションを起こしている。こうした事態を背景に、ペルー政府は、わが国に対し、カジャオ港の短期ならびに長期整備計画を作成するよう要請してきた。

わが国は、これに応じて、後に示す調査団を編成し事前調査を行うこととした。

事前調査団は、10数日の現地調査を行ない、ペルー側の意向聴取、資料収集、カジャオ港および周辺の港湾、道路等の現地視察を行なった上、S/Wを締結した。

なお、S/Wに関連して議論のあった点については、Record of Discussion によって両者確認をした。

本調査に対し、ペルー側は、極めて熱心で、しかも結果を鶴首する様子であった。事前調査団としては本格調査がすみやかに開始され、1979年に結ばれた「技術協力に関する日本国政府とペルー共和国政府との間の基本協定」に依り、港湾としては、最初の実りある技術協力となることを熱望してやまない。

調査の具体的内容は本報告書に記載してあるが、成功裡に調査を終え、ここに事前調査報告できたことは、野田大使をはじめとする在ペルー日本大使館各位、JICAリマ事務所各位、OECDリマ事務所各位、運輸通信省水上輸送局長 German Gonzales Ugarte、ペルー国営港湾公社（ENAPU-PERU）総裁 Gustavo Ballón ZegarraをはじめとするENAPU側各位の大いなる協力の賜物であり、調査団としては感謝の念に耐えない。

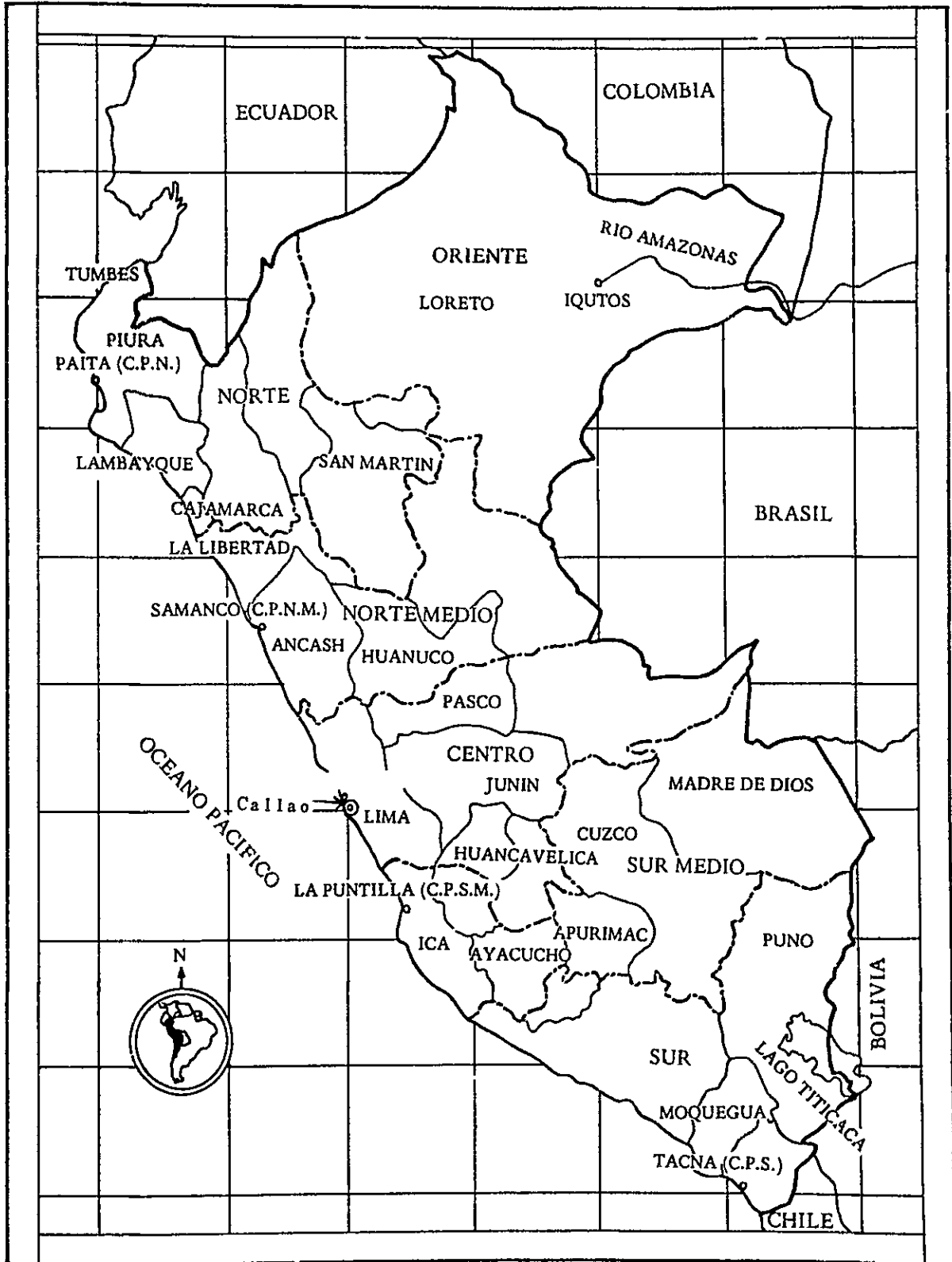
特に、ENAPU計画部長 Ing. Carlos Canamero は事前調査団の全日程にアテンドし、我々の調査に際し、最大限の便宜を図ってくれたことは、非常にありがたかった。ここに調査団として、改めて感謝の意を表したい。

昭和57年4月

ペルー国カジャオ港整備計画
事前調査団長

中野拓治

ペルー国全図



1 調査の目的、日程及び調査団の構成



I 調査の目的、日程及び調査団の構成

1. 調査の背景

カジャオ港は首都リマを含む同国の最も人口稠密で開発の進んだ地域を背後圏に持ち、同国の全輸出入量の25%、年700万トンの、主として一般雑貨を扱う主要な港湾である。

しかしながら、近年港湾整備が行われなかったため埠頭が狭隘化していること、及び貨物のコンテナ化が著しいことから、同港は需要に充分対応できず、滞船も目立ってきている。こうした現状に鑑み、同国政府は同国の生活水準の向上及び経済開発を図るための社会基盤整備の核として同港の整備計画を位置づけ、このため同港の整備計画の立案につき、同分野で経験豊富な我が国に対し、協力要請してきた次第である。

2. 調査の概要

ペルー国政府の計画によれば、調査は

- (1) 西暦2000年を目標年次とする同国の経済発展（成長率6%）並びに近年顕著となりつつあるコンテナ貨物の需要増に対応しうる長期的な同港整備計画（マスター・プラン）を策定すること、
- (2) 概ね5年後の施設整備に関するフィージビリティの検討、
- (3) これらの計画策定のための自然条件調査、から成り、これらの調査にもとづく同港の土地利用、環境保全、入出港船舶のタイプの推定、及び施設整備に関する設計、積算、便益、施工計画を含む整備計画を立案する、とのことである。

3. 事前調査の目的

以上の背景・概要を踏まえ、本格調査に先立ち、要請の背景・内容を確認し、ペルー国政府関係者との協議及び現地踏査を行い、本格調査の妥当性につき調査し、今後の本格調査のための指針を示す。

4. 調査団の構成

団 長	中 野 拓 裕	運輸省第四港湾建設省下関調査設計事務所長
港湾計画	川 島 毅	運輸省港湾局建設課国際協力室補佐室
積算・施工	友 兼 郁 夫	運輸省大臣官庁政策計画室
自然条件	成 瀬 進	運輸省第二港湾建設局企画課第一計画係長
調 整	海 保 誠 裕	国際協力事業団社会開発協力部開発調査第一課職員

5. 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	3月26日	金	17:30 東京発 RG833 23:30 リマ着	JICA事務所 高橋, 細貝両氏, 港湾公社企 画部長Mr. Canamero 他の出迎えを受ける
2	3/27	土	01:30~02:00 ホテル 10:30~16:30 市内	打合せ, 背後圏踏査(リマ市内) 背後圏踏査(カジャオ港及びアクセスルート)
3	3/28	日	09:00~15:30 Callao 踏査	カジャオ港内視察, コンテナ倉庫, ACCESS ROUTES 他
4	3/29	月	09:15~09:30 JICA事務所 09:30~10:15 日本大使館 10:30~11:30 運輸通信省 12:00~13:30 港湾会社(カジャオ)	高木所員と日程打合せ 野田大使, 伊藤公使, 厚井書記官に調査目的 説明他 水上輸送局長 Comandante Sr Gonzalez表敬 } 総裁他表敬, 日程打合せ等 高木所員同行
5	3/30	火	16:00~18:00 ホテル 09:10~10:10 OECFリマ事務所 10:40~12:30 ENAPU 13:00~14:30 JICA事務所 19:30~21:30 ミカサ	団内打合せ 桜井所員と懇談, 借款に関する現状聴取 カジャオ港踏査 Mr. Canamero 他のご案内に よる 調査報告と打合せ 今井専門家と懇談
6	3/31	水	08:30~14:00 ENAPU	S/W協議 Mr. Canamero 要請の背景, 内容の確認
7	4/ 1	木	08:30~12:00 ENAPU 12:30~14:00 Marina Restaurante 14:10~16:30 ENAPU 17:30~19:30	S/W協議及びR/Dドラフト提示・協議, 自 然条件調査打合せ 懇談 Mr. Canamero Questionnaire に関する質疑応答, R/D S/W準備 黒岩博士と懇談(自然条件等について事情聴 取)
8	4/ 2	金	08:00 ホテル発 11:30 サン・マルライン港着 11:30~14:30~18:00 リマ着 18:30~20:00	サン・マルティン港視察(ビスコ) Mr. Canamero 同行 団内打合せ
9	4/ 3	土	09:40 リマ発 PL433 10:40 クスコ着	山岳部背後圏踏査
10	4/ 4	日	08:20 クスコ発 CF216 09:30 リマ着 17:00~20:00	帰 途 団内打合せ

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
11	4月5日	月	09:00~10:30 日本大使館 10:30~12:00 JICA事務所 13:30~14:30 ENAPU 15:00~19:00 19:30~22:30 EICRILLON	厚井書記官, 報告及び打合せ 高木所員 同上 Canamero, R/D変更, 最終確認, Questionnair 回答取付け S/W, R/D準備 懇談会, 高木所員, Mr. Canamero
12	4/ 6	火	11:30~ ENAPU 13:00~15:00 大使公邸	S/W, R/D署名 昼食会
13	4/ 7	水	01:30 リマ発 BN920 10:00 サンフランシスコ着	高木所員の見送りを受ける 帰 途
14	4/ 8	木	09:30 サンフランシスコ NW009	"
15	4/ 9	金	18:00 東京着	"

